杯状穴

は

い状穴

女の一心

岩をも通す

　みなさんは杯状穴をしっていますか。初めて聞いた人も多いと思います。
　学校を出てにこにこ坂を降りて、信号を渡ったところに、荒木神社の「奉献燈(ほうけんとう)」があります。

「奉献」とは、神様をまつる行為のことで、その道筋に灯りをともすためにあるものが奉献燈です。

　今は道路をはさんでいますが、そこから荒木神社までの道のりが「荒城神社参道」と呼ばれる所以がわかるかと思います。

この奉献燈の土台の岩に、はいずきのように凹んでいる穴があります。この穴のことを杯状穴といいます。

杯状穴に込められた思い

今から1200～1300年前の、
奈良時代の話ですがですが、
夫が戦に駆り出された奥さんが
いました。何日もたった中、
無事を祈る妻が夜中に荒木神社ま
でなかなかいけません。そこで
小石を拾って木魚のようにたたいて拝んだという伝説
があります。
「女の一心、岩をも通ず」という言葉が表しているよ
うに、万葉時代の今井の奥様の夫を思う強い心のあと
なのです。

感想

　僕の通学路の奉献燈に空いている穴について、ずっと前からなんだろうと思っていたけど、知れてよかったです。
　ずっとふしぎだったけど、特に理由はないんだろうなーと思っていたので、とてもびっくりしました。
　杯状穴のことを、みんなも知ってくれたらうれしいです。

作成者　H.S.